

超人気FP!

ABC ネットニュース

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2018年1月1日

今月のトピックス 「鬼が笑う前に都市伝説と揶揄されてしまいそうだが？」

新年、明けましておめでとうございます。

本年も皆様方に有益な情報をお届けできるようにこの先取りニュースを執筆させていただきます。本年も昨年同様、何卒よろしくお願い致します。

1月の先取りニュースであれば、2018年の見通しを述べるべきでしょうが、さらに先の2019年までを先取りしたいと思います。なぜなら2019年は改元が行われる年。昭和から平成は天皇の「崩御」、今回は「譲位」という違いがあるものの、経済環境がよく似ている気がしてならないからです。正確にはバブルの芽がはぐくまれつつある、あるいはよく似た出来事が起こり始めていると言い換えた方がよいのかもしれませんが。

たとえば、消費税が導入されたのは1989年4月、今回は2019年10月に消費税は8%から10%に引き上げられる予定。バブル当時、若者がクリスマスを過ごしたのが赤坂プリンス、現在はその跡地が「東京ガーデンテラス紀尾井町」となっているが、2017年のクリスマスは高級レストランの予約を取るのが大変だったとか、また、豪華クルーズ船「シンフォニー」も高額プランから完売したとか・・・。

たまたま乗ったタクシーの運転手曰く、12月半ばの平日（確か火曜日）に六本木ではタクシーが拾えない状況があったそうです。その日は六本木で大きなイベントが催されたとは見聞きしません。同年の競馬の有馬記念、勝ったのはキタサンブラックですが同馬は勝って引退。1989年は同レースを勝って引退したのはオグリキャップ、2006年の同レースはディーブインパクトでやはり勝って引退、全て武豊騎手が手綱を取っていたのです。都市伝説と一笑にしないでいただきたいのです。さらに、日本人ではありませんが、昨年はレオナルドダビンチの絵画が510億円という超高額で落札されたのはご存知の通り。バブル期は日本人が金に糸目をつけず名画を買いあさった状況に似ているのです。

株価は日本銀行の金融緩和などを背景に上昇、不動産価格も上昇、ゴルフ会員権、高級スポーツカーなど高級品を始めとした財テクブームが起こったのです。現在では、やや下火になりつつありますがアパート建設が急増、株価は約27年来の高値まで上昇、さらにビットコインを始めとした仮想通貨投資ブームまで起こっているのです。

残念ながら筆者も当時の出来事を調べ尽くしているわけではないので、これ以上は筆が進まないことが申し訳ないのですが、今後これらのことが起こるかどうか注目しましょう。日本銀行はバブルを生んだ政策金利を1989年5月に引き上げたので、2018年日本銀行が金融政策を変更するのか否か。残念ながら欧米のような金融緩和の出口政策に歩を進めることはないと思いますが、足元のイールドカーブコントロール（金利操作）の水準を引き上げる可能性は充分ありえると思います。また、1988年4月には「少額貯蓄非課税制度（通称「マル優制度」）が廃止されたのです。この廃止によりアングラマネーが資金浄化のためにさまざまな市場に流れたと言われています。マル優制度廃止に匹敵する出来事が起こるか否かも注目しましょう。

ちなみに、2018年の株価は、世界的な景気の拡張の流れが崩れなければ企業業績を背景に堅調が続くと考えられます。リスクは想定以上に米国が利上げを行うこと（4～5回）、中国経済が想定以上の減速となることです。2018年は戌年、相場格言は戌笑うですが、十干十二支では「戌戌（つちのえいぬ）」、年寄り付き高し、大引け安しだそうです。どんな1年になることやら・・・